

News Letter

緑肥と発酵鶏ふんを使った高品質な米づくり

★ 倉敷菅生地区稲作研究会の概要

倉敷市で農業を営む目黒智久氏は、環境保全型農業直接支払制度の創設を契機に、平成23年、同制度を活用した営農活動に取り組むため、倉敷菅生地区稲作研究会を結成しました。

結成時は、2戸で約10haの経営面積でしたが、地域の農地を借り受けて規模拡大を進め、現在、約20haとなっています。このうち、約12haの農地で特別栽培米をはじめ水稻の環境保全型農業に取り組んでいます。



(ヘアリーベッチの栽培)



(発酵鶏ふんの散布)

★ 環境保全型農業の取組

同研究会は、結成時から緑肥（ヘアリーベッチ、レンゲ）と発酵鶏ふんを組み合わせた水田の土壌づくりに取り組み、平成25年から3年間、岡山県農林水産総合センター農業研究所と連携して、施肥設計の開発に向けた水稻の栽培実証を行いました。

この結果、緑肥の生育量に応じて、発酵鶏ふん量を調整する技術を確立し、高品質な特別栽培米の大規模栽培を可能にしました。同時に慣行栽培に比べ、化学肥料の使用を大幅に抑え、病害に強い水稻栽培を可能とし、農薬の使用も大幅に抑える栽培技術を確立しました。

同研究会では、化学肥料や農薬の使用量を年々低減させ、一部品種では化学肥料・化学合成農薬を一切使わない特別栽培米の栽培を実現させています。

★ 今後の展開

特別栽培米のなかでも高品質な雄町米は、新たな注文が受けられないほど、県内外の酒造メーカーから高い評価を得ており、目黒氏は規模拡大を検討しています。

こうした実績ある先進的な取組は、実需者や地域農業者から厚い信頼を得ており、岡山県下に環境保全型農業が普及することが期待されています。



(雄町米の収穫)

【植物性自然毒情報】

野菜・山菜と似た有毒植物の誤食に注意しましょう

有毒な植物を野菜や山菜と誤って採って食べたり、有毒な植物が混じった野菜や山菜を買ったり、譲ってもらったりして食べたことによる食中毒が数多く報告されています。このような食中毒が起きるのを防ぐには、野菜や山菜を出荷する生産者や消費者の皆様が、野菜や山菜とそれに似た有毒な植物の特徴を知り、野菜や山菜と有毒植物を見分ける力を養うことも必要となります。

農林水産省では野菜・山菜とそれに似た有毒植物の特徴をまとめた※リーフレットを作成しましたので、ご活用いただきますようお願いいたします。

【ニラ】



間違いやすい有毒植物: スイセン、スノーフレーク(スズランスイセン)、キツネノカミソリ、ゼフィランサス(タマスタレ)など

【ギョウジャニンニク】 (別名: アイヌネギ、キトビロ、ヒトビロ)



間違いやすい有毒植物: コルチカム(イヌサフラン)、スズラン、パイケイソウ類など

【ギボウシ類】

(山菜名: ウルイ、ギンボ、タキナなど)



間違いやすい有毒植物: パイケイソウ類、コルチカム(イヌサフラン)、ヒメザゼンソウなど

【フキ】(ふきのとう)



間違いやすい有毒植物: ハシリドコロ、フクジュソウ(福寿草)など

★詳しくはこちらをご覧ください。(農林水産省ホームページ)

- 野菜・山菜とそれに似た有毒植物 (※リーフレットはこちらからダウンロードできます)
<http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/rinsanbutsu/leaflet.html>
- 知らない野草、山菜は採らない、食べない!
http://www.maff.go.jp/j/syouan/nouan/rinsanbutsu/natural_toxins.html

編集: 中国四国農政局 岡山県拠点

〒700-0985 岡山市北区厚生町3-2-6 厚生町庁舎

TEL: 086-223-3131(内線203) FAX: 086-232-4609 <農政局HP> <http://www.maff.go.jp/chushi/index.html>

◇各種メールマガジンを配信中(登録はこちらから) <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>